

講義科目名称： がん高度実践看護学実習Ⅱ

授業コード： 7030601000

英文科目名称： Advanced Clinical Practice of Cancer NursingⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分																								
後期	1学年	2単位	選択 がん看護CNS必修																								
担当教員																											
◎石田 和子 樺澤三奈子 横川史穂子 石岡 幸恵 坂田智佳子 西村 香 長崎 揚子																											
添付ファイル																											
授業種類	<p>【開講】 後期 【授業時間】 2週間以上</p> <p>【担当教員】</p> <table border="0"> <tr> <td>【氏名】</td> <td>【所属】</td> <td>【氏名】</td> <td>【所属】</td> </tr> <tr> <td>◎石田 和子</td> <td>新潟県立看護大学</td> <td>佐藤 裕子</td> <td>神奈川県立がんセンター</td> </tr> <tr> <td>樺澤 三奈子</td> <td>同上</td> <td>西村 香</td> <td>新潟県立がんセンター新潟病院</td> </tr> <tr> <td>横川 史穂子</td> <td>同上</td> <td>長崎 揚子</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>石岡 幸恵</td> <td>同上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>坂田 智佳子</td> <td>同上</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>【本学の科目区分】 専門分野</p>			【氏名】	【所属】	【氏名】	【所属】	◎石田 和子	新潟県立看護大学	佐藤 裕子	神奈川県立がんセンター	樺澤 三奈子	同上	西村 香	新潟県立がんセンター新潟病院	横川 史穂子	同上	長崎 揚子	同上	石岡 幸恵	同上			坂田 智佳子	同上		
【氏名】	【所属】	【氏名】	【所属】																								
◎石田 和子	新潟県立看護大学	佐藤 裕子	神奈川県立がんセンター																								
樺澤 三奈子	同上	西村 香	新潟県立がんセンター新潟病院																								
横川 史穂子	同上	長崎 揚子	同上																								
石岡 幸恵	同上																										
坂田 智佳子	同上																										
到達目標	<p>がん看護の特殊性を踏まえて、看護専門職としての包括的なアセスメント能力・関連職種間の連携・ケアマネジメント・コンサルテーション・教育的機能を果たす能力・援助方法の開発推進等の役割について、論理的判断・諸理論を活用して実習し、専門的・総合的能力を養う。</p> <p>実習Ⅰを発展させ、スーパービジョンを受けながら、臨床においてがん看護専門看護師として6つの役割における相談・調整・看護職への教育、およびがん医療における地域連携活動に参加し、問題解決に向けた総合的な実践能力を養う。</p>																										
授業概要	<p>組織集団の特徴を理解し、横断的な活動の進め方を念頭に入れ、病棟や外来など集団に必要なニーズを把握し、カンファレンスや集団を対象に看護職への教育活動を実施・評価する。</p> <p>コンサルティ能力アセスメントからはじまるコンサルテーション活動を意識してコンサルテーションを行う。</p> <p>病棟内、横断的活動、チーム内、地域連携など組織内外での調整を実施し、がん看護専門看護師に必要な能力を養う。</p>																										
授業計画	<p>2週間以上 授業内容</p> <p>授業形態：実習 学習課題：がん看護専門看護師としての役割（相談・調整・教育）を実践する。 学習内容：1. コンサルテーション活動ができる。(1例) 2. 調整活動ができる。(1例) 3. 看護職への教育活動ができる。(1例) 4. がん医療における地域連携活動ができる。 5. 専門看護師としての役割開発と課題について考察する。</p> <p>【実習場所】 神奈川県立がんセンター 新潟県立がんセンター新潟病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～5日/週の割合で実習施設に行き、実践する。 ・役割について判断した内容について、実習指導者からスーパーバイズを受ける。 ・実習記録をまとめ、教員に提出し指導を受ける。 <p>備考：</p>																										
事前・事後学習	適宜、指示する。																										
評価方法、評価基準	レポート 50%、プレゼンテーション 30%、課題分析能力 20%を総合的に判断する。																										
テキスト	教科書は特に指定しない。																										
参考図書・資料等	必要に応じて提示する。																										
受講、課題、資料配布等のルール	長期履修生の場合、実習時期は相談に応じて行う。 実習Ⅱを履修する場合は、実習Ⅰを履修し、単位認定されていることを条件とする。																										
教員からのメッセージ	<p>授業に関する質問等がある場合、下記メールアドレスにお問い合わせください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石田 和子：kazukoi@niigata-cn.ac.jp ・樺澤三奈子：minako-k@niigata-cn.ac.jp ・横川史穂子：yokokawa@niigata-cn.ac.jp ・石岡 幸恵：ishioka@niigata-cn.ac.jp ・坂田智佳子：sakata@niigata-cn.ac.jp 																										

オフィスアワー

石田、権澤が窓口となり対応する。事前にメールで連絡すること。